

## 書 信 断 片

出来るだけ早く歸る積りで療養してをりますが、思ふにまかせず泣きたい様な事が度々御座います。百合子にも本當にすまなく思ひます。幼稚園の時からあれには、一度もつくすことが出来ないので不幸な子だと思ふと涙が出ます。

今こちらでは思ふ様な養生をさせて貰つてをりますので、決して不平も不満もありません。この頃は、毎日、阿彌陀經やら、その他の聖教など、繙いて見たり、母上といろいろと話して居ります。只々、皆様に私故の御苦勞を永い間おかけ致しますのが辛いのです、身一つなれば至って安らかな事で御座いますけれど、わけのわからぬ足手まとひの子供を二人まで御世話を願ふのが一番心苦しい御座います。

『本願寺物語』を大方よみました、なかなかよく書いてあると思ひます、

仰せの通り病氣で寝てゐればこそいろいろの佛書にも親しめますもの、元氣で働いてゐてはとてもゆっくり味讀するやうな事は出来ません。それを思ふと、かう云ふ機縁に會はしていただくのも佛恩と深く喜ぶべきことでもあります。でもかうして永く病床にあれば、始終愚痴のみ申して居ります、母上が御寺に参りますといろいろの御法のお話をしてくれませう、今日も西教寺さんへ参りましたから歸りましたら御話のきかれること、待つてゐます。

昨年十一月に此地へ來てからよく手紙を書くので、この便箋百枚綴が三冊もう大方なくなりました。自分乍ら驚きます、それが大方岩國ばかりですから驚きますよ、お宅から來た手紙も三斤入りの砂糖箱へ殆んど一杯になりました。

お父上様も日々御衰弱が加はり、皆様も本當に御心痛と思ひます。お母様が御達者で御看病なさる故、御不自由はないと思ひますもの、私が御目にもかゝられず、御言葉もかけられぬ身を悲しみます。御姉上様が御出

になれば御母様もお心強く、御父上様もせいよく思はるゝ事と思ひます。いたらぬ私の不孝を御詫なさって下さいませ。あなた様も兄弟もなく親族も遠いのに、その上、私がこんな身の上にて御父上様の御病床は本當にお淋しい事と思ひます。御手紙の通り、あなた様も私も弱い体、御父上様の後々の事、御心配なさるのも無理からぬ事です。もう少し元氣になってお目にかゝつたらとそれのみ思つてをります。

○最後の書信

先日は御多忙中をよくこそお出で下さいました、時間が余りなかつたのでお話も出来ず残念で御座いました。

でも、あなた様の御無事なお顔を拝し、和光の元氣な姿を見、御母様や百合子の事など直きにきくことが出来て嬉しく安心しました。(畧)お歸りの翌朝下さいました御葉書拝受しました。和光の得意相に云ふ顔、それ

をきく百合子の顔が目に見えるやうです、私も一日も早く歸りたいと一生懸命に養生して居りますが、次々に故障が出来て永引き皆様に御心配をかけます。(畧)〔六、一二、七 死の五日前〕

○

オカアサン、ビョウキハ、マダナホリマセンカ。

ハヤクナホツテ、オカヘリナサイ、カヅミツサントマツテキマス。ナツヤスミニユクノガウレシイデス。

六月二日

ユリ子

オカアサマ

(完)